

中間評価シート

中間評価（表紙）

津和野町 歴史的風致維持向上計画（平成25年4月11日認定） 中間評価（平成25年度～令和元年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史・伝統を反映した活動の継承と活性化	3
II 歴史的建造物等の保存・活用	4
III 歴史的文化の息づく街並み・集落の環境保全・整備	5
IV 歴史文化を生かした観光振興等による地域の活性化	6
V 住民等の理解と参加・協働による取り組み展開	7
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 藩校養老館活用事業による資源利用と観光客増加	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 藩校養老館保存修理事業	9
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 街の歴史的風致	10
2 野と山の歴史的風致	11
■ 庁内体制シート（様式6）	12
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	13
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	14

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	街の歴史的風致	I, II, IV, V	
2	野と山の歴史的風致	I, III, V	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史・伝統を反映した活動の継承と活性化		
II	歴史的建造物等の保存・活用		
III	歴史文化の息づく街並み・集落の環境の保全・整備		
IV	歴史文化を生かした観光振興等による地域の活性化		
V	住民等の理解と参加・協働による取り組み展開		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	養老館の改修における資源利用と観光客の増加		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	藩校養老館保存修理事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
方針	I 歴史・伝統を反映した活動の継承と活性化	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

過疎化や少子化が進み、民俗芸能等の維持・継承が難しくなっている。また、未指定文化財の民俗芸能等に対する現状把握や調査等が不十分であり、行政としての支援、関係団体や専門家、行政の連携や共同の取り組みも十分とはいえない。

方針

地域住民や専門家等と連携しながら、伝統芸能及び民俗芸能などの調査や記録に努め、活動の情報発信及び担い手の確保・育成に努める。津和野民俗芸能保存協会を支援し、関係団体の活性化や未指定の民俗芸能等の調査に努める。歴史的建造物の保存・活用を促進しながら、酒造りなどの地域の伝統産業の支援に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝統行事・民俗芸能支援事業	16団体の伝統行事・民俗芸能を支援	あり	H29～
2	町指定無形民俗文化財	指定2件	あり	H28、29
3	日本遺産(津和野百景図)	平成27年度認定	なし	H27～
4	日本遺産(石見神楽)	令和元年度認定	なし	R1～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

平成29年度より文化遺産総合活用推進事業で記録映像作成、後継者育成、衣装等の整備を行った。後継者育成事業では、平成29年に400年目を迎えた津和野踊りに、保存会への新規加入を促し、練習会や津和野踊りの当日の参加増加を図った結果、当日500人の参加があり、減少する会員数も維持することが出来た。津和野地域文化協会による文化祭も3年目を迎える事が出来、町民の地域の文化遺産に対する関心や意識が向上し、今後の地域活性化にもつながってきていると考える。

また、日本遺産に認定された「津和野今昔～百景図を歩く～」では、ストーリー性を持ち「古地図ウォーキング」や「大地×文化のまち歩き」と題してイベントを行った。近隣市町村からの参加者が多く集まり盛況に終わった。



津和野地域文化協会による文化祭開催時の様子



民俗芸能 パンフレット作成

④ 自己評価

助成金・補助金を活用しながら、津和野町として各団体の自主的な活動を尊重し、支援を続けてきたことにより、町民の意識向上につながった。しかし過疎化や少子化による担い手不足が深刻である。

⑤ 今後の対応

公民館を拠点とした歴史文化に関わる取り組みを推進し、地域学やまちづくりへの展開により、後継者育成につなげてく取り組みを推し進めたい。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
方針	Ⅱ 歴史的建造物等の保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

指定、登録されている建物の中には老朽化により修理が必要となっているものがあるし、未指定や未登録の文化財（建造物）については、指定文化財以上に保存修理が必要な物が多数存在する。所有者等による維持管理が難しくなってきたものもあり、今後さらに老朽化やき損、取り壊しが生じることも予測される。把握された歴史的建造物の中に詳細な調査が行われていないものもある。

方針

指定・登録文化財については、所有者・管理者等と連携しながら、修理をはじめ適切な保存・活用に努める。未指定・未登録文化財については、継続的に調査を実施し、その状況と価値の把握に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	藩校養老館保存修理事業	藩校養老館の保存修理を行い復元	あり	H27～R1
2	永明寺保存修理事業	永明寺の屋根の葺き替え等を開始	なし	R1～
3	文化財の復旧	津和野城跡の出丸石垣45㎡を整備	なし	H27～
4	文化財の防災対策	重伝建地区の防災計画の策定	あり	H27～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

藩校養老館保存修復事業は、令和元年に竣工した。施工に際しては、津和野町伝統的建造物群保存地区保存審議会等において議論を重ね、完成した。

また、令和元年度より国の有形文化財である永明寺を屋根の葺き替え、庫裏の修繕を始めた。



保存修復前の養老館 外観

④ 自己評価

老朽化が進行していた養老館については修復工事が終了し、貴重な文化財として後世に保存できることとなった。この修復工事は史跡を構成する建造物としての価値を保存しつつ、耐震補強と活用整備のための工事もあわせて実施できた。



保存修復後の養老館 外観

⑤ 今後の対応

修復工事が終了した養老館については、今後は活用について利用促進を図っていくことになる。展示品や歴史体験プログラム、多目的スペースとしての活用など歴史的価値と立地を活かした展開を推し進めたい。

また、国の有形文化財の永明寺に続き、鷲原八幡宮の本殿・門の修繕を予定している。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
方針	Ⅲ歴史的文化の息づく街並み・集落の環境保全・整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

歴史的建造物や地割りの残る街並みにおいては、過疎化・高齢化を背景として、空き家や空き地が増加している。また、集落地においても、空き家や耕作放棄地の増加が進んでおり、景観の変容にもつながっている。

方針

歴史的街並みとしての面的な保存・活用を検討するとともに、歴史的な環境と調和した良好な生活環境や景観の保全・形成などに取り組む。また、棚田や田園の景観の保全、自然環境（景観）の保全などに取り組み、面的・ネットワーク的に歴史文化の息づくまちづくりに努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	津和野町景観計画及び景観条例	毎年約50件の届け出	なし	H20～
2	休憩施設等整備事業	2件	あり	H26～H29
3	津和野駅周辺整備事業	駐車場等整備	あり	H30～
4	空き家再生事業	2件	あり	H26～H29
5	照明整備事業	照明灯30基	あり	H26～H29

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

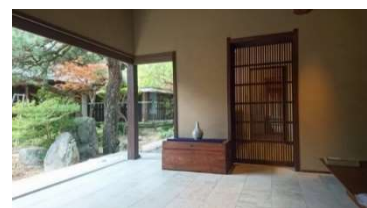
津和野町景観計画及び景観条例に基づき、建築物・工作物の配慮を行っている。現在津和野駅周辺整備を行っており、駐車場の整備等が行われている。その一環で、駐車場に展示されていたSLを駅舎の近くに移動した。記念撮影等で今まで以上にぎわっている。

また、稲成神社の参道へと続く道に、統一した照明を設置したことにより夜間の津和野の町が一層幻想的なものとなっている。

空き家対策として、所有者の理解を得て改修し、簡易宿舎「町家ステイ」として活用し、新たな宿泊利用者層を開拓した。



稲成神社へと続く参道の照明



空き家改修後

④ 自己評価

殿町通りから稲成神社参道へと続く照明が統一化されたことで、夜の津和野の町の魅力が増大した。

町家ステイは指定管理者制度を利用し、(一社)津和野町観光協会が管理している。経営状態も問題なく、宿泊客が減少している町にとって、建物の風情を残しつつ最新設備を取り入れモダンで快適な空間を生み出し、新たな顧客層を獲得し寄与している。

⑤ 今後の対応

津和野町景観計画では各地区ごとにテーマ・取り組みの方針が出されている。令和元年度に青野山が国の天然記念物及び名勝に認定されたこともあり、自然と歴史に溶け込んだ景観づくりが望まれる。

駅前周辺整備には、長い期間と大きな事業費が見込まれる。関係機関等と連携を取りながら、より良い景観創出と地域活性化のため取り組む必要を感じている。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
方針	IV 歴史文化を生かした観光振興等による地域の活性化	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

社会情勢の変化により、観光客の志向も多様化し、新たな魅力作りが求められている。また、観光客の減少は地域経済の衰退を及ぼし人口減少により地域の活力が失われていく。

重点地区においては、歴史的街並み及び文化財の立地は面的な広がりを持つが、案内表示や歩行環境、情報提供は十分とはいえず、ネットワーク的な活用は極めて限定的である。

方針

文化財の所有者や関係団体と連携し、文化財や歴史的風致の保存と合わせて、その価値や魅力を引き出して観光振興につなげていく。

案内板や説明版、誘導標識の整備・充実、歩行環境の整備等によって回遊性を高めるとともに、文化財等をめぐる機会や体験機会の確保、広域的な情報発信に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	旧城下町等サイン整備事業	誘導サイン34基、解説サイン8基	あり	H26～H30
2	津和野城跡パンフレット	令和元年度 完成	あり	H29～R1
3	津和野城跡VR	令和元年度 完成	あり	H29～R1

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

回遊性を高めるために、文化財の所有者・関係団体と協議し、案内板や説明板の整備と充実に務めた。日本遺産「津和野百景図」をテーマとしたまち歩きも行い盛況であった。

津和野城跡パンフレットが完成し、津和野城の歴史や城山の楽しみ方が一目でわかり好評である。



誘導サイン



解説サイン

④ 自己評価

案内板や解説板を設置したが、関係団体との連携が上手く図られなかったことから設置後に要望が出るなどした。観光客や町民へ優しい表示を心がけるよう今後の課題としたい。また、情報発信をするうえで、訪日外国人の受入環境がまだまだ足りない。



津和野城跡観光パンフレット 左

津和野城VRパンフレット 右

⑤ 今後の対応

日本人向けの誘導サイン、解説サインは設置したが、外国人向けのサインの充実が今後の課題となる。QRコード等を活用し、フリーWi-Fiとの連携をさらに強化するなど案内機能を充実したい。また、駅前周辺整備とともにフリーWi-Fiとの連携も強化し、情報提供が必要である。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
方針	V 住民等の理解と参加・協働による取り組み展開	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題

伝統芸能及び民俗芸能の維持管理や文化財の保護・活用の担い手として、住民等の協力と参加を継続的に得ることに対する取り組みが十分ではない。

方針

住民等の理解と協力を推進力に、歴史的建造物保存・活用や良好的な周辺環境の保全・形成、伝統芸能の担い手の確保を進めるため、文化財の調査や情報提供、普及啓発に努めるとともに、町民参加・協働の仕組みを構築する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	文化財の防災対策	重伝建地区の防災計画の策定	あり	H26～H30
2	住民と連携・協力した取組	津和野まちなみ保存会設立 津和野地域文化協会設立	なし	H28

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

「津和野まちなみ保存会」は、設立時加入者が、伝統的建造物群保存地区の216世帯のうち61世帯だったが、現在は68件の加入世帯となっている。防災訓練など、自主的に行っている。

「津和野地域文化協会」は例年11月に文化祭を開催し、伝統芸能の情報発信をしている。



まちなみ保存会による防災訓練の様子

④ 自己評価

重伝建地区の防災計画は、防災の専門家のみならず、津和野まちなみ保存会などの地域住民の参加を得て、平成28・29年度の2ヶ年で策定している。計画策定の過程で実施したワークショップなどを通じて、文化財の保存・活用への住民参加の意識が高まった。



文化協会による文化祭の一場面

⑤ 今後の対応

「津和野まちなみ保存会」を中心に伝統的建造物群保存地区内の加入者を増やし、将来的にはNPOの設立も検討されている。また、「津和野地域文化協会」による文化祭は今後とも継続し、ただくようにPR等協力したい。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
効果	i 藩校養老館活用事業による利用促進と観光客増		

① 効果の概要

藩校養老館を保存修理したことにより、観光メイン通り殿町の景観を利用した、施設を活用したイベントを行うことができる。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	藩校養老館保存修理事業	あり	H27～R1
2	藩校養老館活用計画	なし	H30～
3	都市再生整備計画	あり	H25～27
4	地域商店街活性化事業・地域にぎわい補助金	なし	H23～26

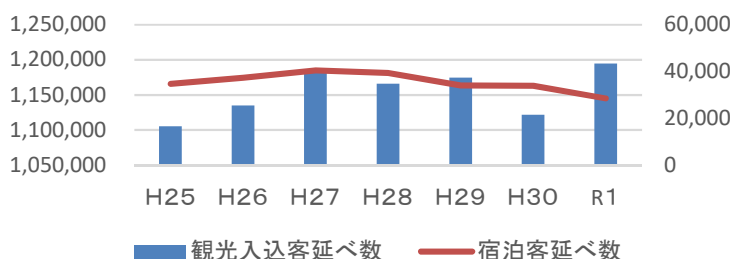
③ 効果発現の経緯と成果

平成27年度より5年かけて文化財保護審議会などでの協議を重ね藩校養老館の保存修理事業を行った。令和元年、新しくなった養老館の前で津和野地域文化協会主催の文化祭で、子鷺踊りを披露した。令和元年12月には、将棋の竜王戦の対局が行われ、同館において新たな竜王が誕生し、大きな話題を呼んだ。主催者からもポスピタリティを含め好評であった。



津和野地域文化協会主催の文化祭①

観光客入込延べ数・宿泊延べ数



津和野地域文化協会主催の文化祭②

④ 自己評価

現在、養老館では文化庁補助事業であるリビングヒストリー促進事業を実施中であり、継続した文化財活用事業を進めることで、観光客を含め町内外からの来訪者増が見込まれる。



「11/20外国の方への対応は？」開催時

⑤ 今後の対応

「藩校養老館活用計画」に基づき、利用促進を図っていく。また、有識者コメントにもあるように、展示品、活用イベント等についても改めて検討をしていく。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
取り組み	藩校養老館保存修理事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

藩校養老館は、柱等が全体的に白アリ被害を受けるとともに、屋根瓦の割れなどにより雨漏りが発生していたため危険であった。そのため、平成27年度より事業を開始し、5年をかけて保存修理を行った。

平成29年度には工事完了後の活用を図るため「藩校養老館活用計画」を策定した。

修理前



修理後



② 自己評価

解体調査に伴って建築痕跡調査・資料調査・類例調査を行った。修復に関しては、当初予定していなかった入口の変更など大幅な変更が出てきたため、工事期間を当初より延長する必要が生じた。調査に基づく修復が出来たことにより、殿町の景観の維持向上につながった。

外部有識者名

石川卓夫 景観審議会会長

外部評価実施日

令和2年7月8日

③ 有識者コメント

養老館の復元修理となっているが、養老館としての利用が終わってから現代までの変遷がどこにも書かれていない。例えば、役場や中学校の図書室、図書館として利用されていたこと、出格子を付けていた時代がなくなっている。現在に至るまでの変遷を表現（展示等）していただきたい。また、武道場を復元したのは全国で初めてと聞いているが宣伝が必要ではないか。

また、利用料を取るのにふさわしい展示品であるか疑問を感じた。有料施設であるという意識を持ち、一般の方に歴史的価値などを解りやすく伝えるよう努める義務がある。



現地評価



意見聴取

④ 今後の対応

現在に至るまでの変遷について、分かるように写真等の展示を検討する。また、復元した当時の建築技術を一般の方にも分かりやすく伝えられるようにする。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	街の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史文化の息づく街並み・集落の環境の保全・整備		

① 歴史的風致の概要

津和野町は、山陰の小京都と呼ばれる歴史と文化の町である。山間の小さい町は、津和野城跡と城下町遺跡の一体的な風景が魅力となっている。石見瓦を使用した建物が多く街並みの景観が特徴ともいえる。また、津和野城跡からは国の天然記念物及び名勝に指定された青野山がのぞまれる。山や源流、そこから生まれる産物は地域の暮らし、生活文化にもつながっている。この町の玄関として津和野駅がある。駅前にあった老朽化していた旧SL館を撤去し、駅周辺の整備を進めている。ここには、町民・観光客の憩い、にぎわい創出の場所として公園を造る予定である。駅の改修も進め心地よい空間を演出することになっている。

② 維持向上の経緯と成果

○ 休憩施設等整備事業

旧SL館の敷地及び建物を買取り、取り壊し・撤去したことにより、駅前の景観がよくなった。跡地は、小公園の整備を行っているので、観光客等の休憩場所となる。

○ 津和野駅周辺整備事業

駅舎内トイレを多目的トイレとして改修を行ったことにより、利便性が良くなった。外観も木材を使っており、景観にも配慮した。

○ 照明整備事業

殿町通りから稲成神社へと続く表参道に照明をつけたことにより、より一層幻想的なものとなった。



弥栄神社



SL館



SL館解体後



駅舎内トイレの改修後

③ 自己評価

町の表玄関としての景観整備、人車を分離した安全性の確保、快適な待合空間の整備が整いつつある。

④ 今後の対応

駅前周辺整備事業では、小公園の整備や駅の改修を実施するにあたり、景観はもっとも重視される。津和野の表玄関となる駅の新たな出発となるよう魅力向上を図っていく。駅前周辺を一体的に整備することによりにぎわいを創出できる魅力的な空間、快適な待合空間の整備に今後も取り組んでいく。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
歴史的風致	野と山の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 歴史文化を生かした観光振興等による地域の活性化		

① 歴史的風致の概要

山間の盆地や平地、斜面地に町家集落を築いてきた地域で、いずれも小規模な空間でそれらが地域の中に点在し地形的には川がつながうような構造になっている。また、史跡に指定された山陰道、さらに津和野・廿日市街道・奥筋往還などの歴史的な道を確認することが出来、清流高津川は支流を含め船運によって人・物などが行きかい地域を支え発展させた歴史を持つ。

② 維持向上の経緯と成果

○水路修景・改良事業

山陰道の一部である、津和野町後田地区にある殿町通り(約250m)にある水路は、鯉や花菖蒲の咲く明治時代に整備された津和野の主要観光スポットである。この水路にある花菖蒲用の枡およびライトアップ用の照明施設が老朽化のため損傷が進行し、周辺の歴史的景観の阻害要因となっていたため、整備した。



殿町水路整備前



旧津和野町のシンボリックな山である青野山。令和元年、「天然記念物及び名勝」に指定された。昭和48年に「津和野町環境保全条例」を定め、独自に景観保全を行っていたが、天然記念物及び名勝地内の保存・活用を図るために、保存活用計画を策定し、方針を定める予定である。

また、平成26年には「津和野今昔～百景図を歩く～」、令和2年には「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」が日本遺産に認定された。平成27年には日本遺産センターを開所し、百景図の展示をしているが、石見神楽が認定され、石見神楽の特設展示を行っている。



殿町水路整備後

③ 自己評価

鷺舞や花まつりなど様々な行事で活用する観光のメインストリートである、津和野町を代表する歴史的通りである「殿町通り」を、老朽化し、景観阻害要素となっていた照明施設も整備したことにより、良好な景観の形成、環境の改善になった。



日本遺産センター

④ 今後の対応

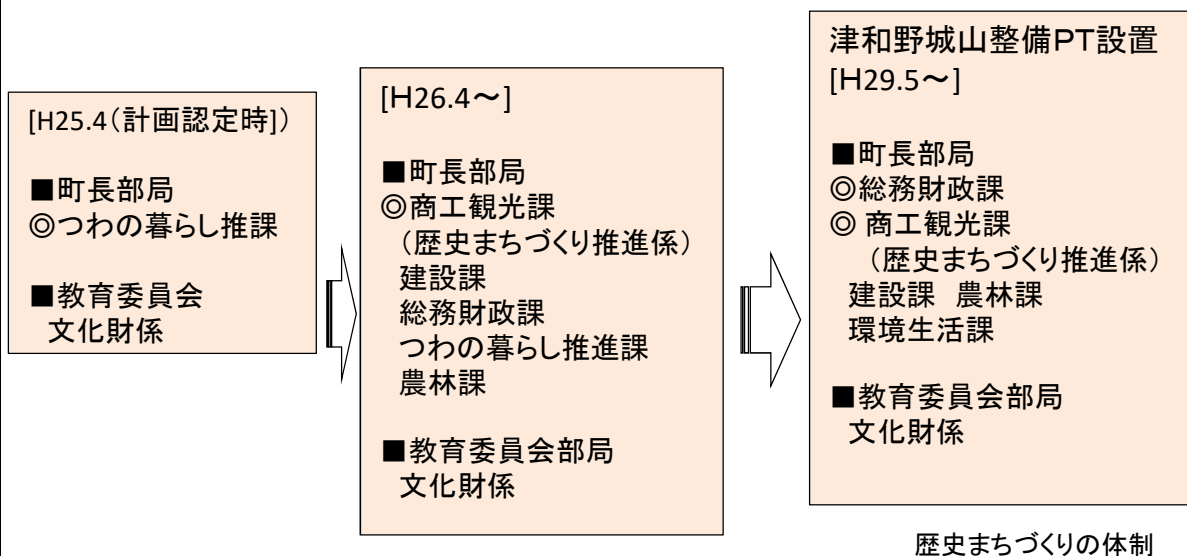
殿町水路の照明や整備が終わり、メインストリートの美観が整った。今後、さらなる活用とその維持管理が重要になる。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
------	------	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

計画の実施にあたり、文化財の保護、景観対策をふまえ、関係各課と「都市再生整備事業」及び「集約促進景観・歴史的風致形成事業」についての事業進捗について随時協議を行うとともに、各事業の計画変更について協議を行った。関係課との調整を随時行っている。

計画認定時はつわの暮らし推進課が主担当課であったが、商工観光課まちづくり推進係が主担当課となり歴史的風致の維持及び向上を担っている。また、平成29年には津和野城山整備プロジェクトが設置され、総務財政課が計画調整担当課となり整備を進めている。



② 庁内の意見・評価

庁舎内の連絡会議について

・事業別に担当課と密に連絡を取り合い、計画に基づき行っている。必要に応じて会議を行っているが、情報共有不足で混乱もあった。

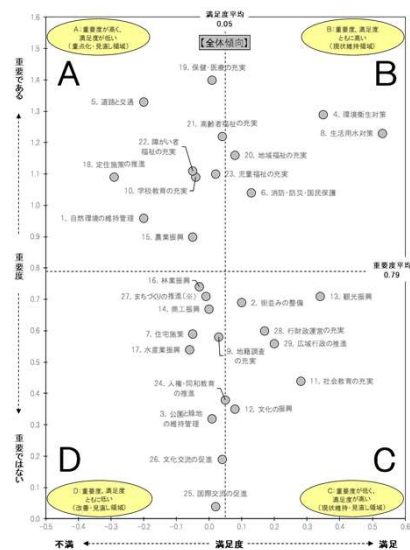
・計画時より関係課が増え、各担当課では判らない文化財保護法や景観条例、景観計画など、細部にわたっての情報が共有できるよう改善している。今後庁内が一体となった整備を推し進めたい。

・空き家再生事業では、現在2件の空き家修繕を行い、町家ステイとして活用している。空き家情報を一手に収集している課との情報共有でスムーズな事業スタートが出来た。

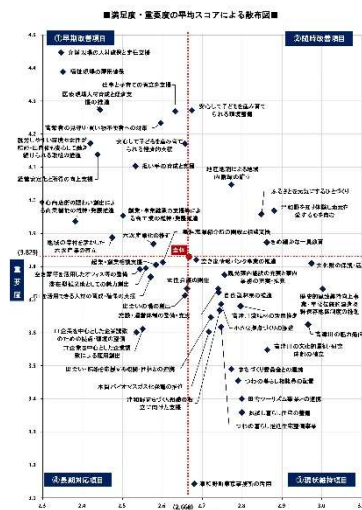
市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
------	------	--------	---------

① 住民意見

平成26年度に調査した町民意識調査では、文化の振興については、重要度や今後力を入れるべき施策については低い水準である。令和元年度にも同じような町民意識調査を行っている。文化財の保護・活用、歴史的風致維持向上事業・重要伝統的建造物群保存地区制度の推進についても満足度が高い。重要度に関しては、まだ低い水準にある。町民にとっての最重要課題は高齢者福祉の充実、保健・医療の充実であり、津和野町の高齢化・後継者不足に顕著に表れていると思われる。しかし、どのような特色のあるまちにすべきと考えるかの回答に、「歴史的遺産を大切にし、まちづくりに生かす歴史のまち」という意見が17.5%であった。



平成26年度住民意識調査



令和元年度住民意識調査

② 協議会におけるコメント

- ・藩校養老館保存修理事業のみ外部評価としてコメントがあるが、他の事業は全て自己評価となっている。外部評価とすべきではないだろうか
- ・津和野町の熱心な取組により町の景観等が向上していると思います。せっかくの取組ですので、これまで以上に町民の皆様とその内容を広く周知いただくとともに、各事業に対する町民の皆様の見解を聞くシステムを整え、今後の事業に活かしていただけるとよいと思います。
- ・数々の整備事業が行われたが、町民に対して説明不足を感じている。
- ・新型コロナウイルス感染対応から、事務局の資料説明もなく書面意見は考えさせられる。参集人数を考慮し開催も可能であったと思われる。
- ・駅前の旧SL館解体、小公園整備は大いに評価できる。
- ・今後は新たに発生している街中の大型廃墟の解体・公園化の利活用、当初計画に挙げていた9号線沿いの廃墟解体・利活用に重点を置いて進めるべきである。

市町村名	津和野町	評価対象年度	H25～R1年
<p>① 全体の課題</p> <p>津和野町には、多数の文化財が存在している。重要無形民俗文化財の鷺舞、島根県無形民俗文化財の津和野踊り、また未指定文化財の田植え囃子、地芝居などの民俗芸能等が数多く行われている。しかし、過疎化、少子高齢化等が進み、維持・継承が難しくなっている。</p> <p>建造物でも同様である。中世における鷺原八幡宮、近世における永明寺、津和野藩校養老館、また旧城下町を中心に江戸時代や明治・大正及び、昭和初期の建造物が残っているが、指定及び登録文化財については、維持管理や保存修理に対応してきているが、手が及ばない建造物も存在する。さらに、未指定や未登録の文化財については、指定文化財等以上に保存修理が必要なものが多数存在する。所有者等による維持管理が難しい状況もみられ、今後、さらに老朽化やき損が生じることが予測され、一部は取り壊しも懸念される。これは、景観の変容にもつながっている。</p> <p>歴史的風致の維持及び向上に取り組むためには厳しい状況下ではあるが、財源を確保しつつその所有者・管理者、そして地域住民等の協力と参画が大切であり、かつ行政を含めた連携と協働の体制が必要である。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>歴史的風致維持及び向上に取り組むためには、その所有者・管理者、そして地域住民等の協力と参画が大切であり、かつ、行政を含めた連携と協働の体制が必要である。</p> <p>無形民俗文化財の維持及び継承についてであるが、過疎化、少子高齢化等、人口減少が要因となっている。関係団体と連携し、その価値や魅力を引き出すことを意図しながら観光振興など地域活性化にも生かしていかなければならない。それには日本遺産に認定された、津和野百景図・石見神楽をもっと知ってもらうことが地域全体の活性につながるため、情報発信に努める。</p> <p>有形文化財においては、所有者による維持管理が難しくなっている。これも、過疎化、少子高齢化等、人口減少が要因となっている。</p> <p>住民や民間事業者等が、地域の歴史的風致及び歴史文化に関心を持ち、取り組みへの協力や参加することが良好な景観、環境づくりにつながる。現在、津和野町商工会や津和野町社会福祉協議会が清掃ボランティアを行っており、旧城下町の景観の向上に努めている。今後も継続して取り組んでいけるよう働きかける。また、景観対策については町全体で行っており、景観形成地区では指針を設定している。屋外広告などの規制を行っているが、平成21年に制定され10年が経過しているため現状に合わず弊害も起きているため、見直しが必要である。</p>			